別紙2-1【いじめ早期発見のための気づきリスト（教職員用）】

リストの活用例

- 個別面談や長期休業明け、生徒の様子が気になった時、定期的な確認・記録等に使用し、生徒の変化や兆候を把握する。
- 適宜、別紙2-2「チェックリスト」も活用する。

生徒の様子（リスト）

生徒の名前： _____ 記入日： _____年 _____月 _____日（ ）

【学校生活全般で】

- 遅刻や早退、欠席が増えた。
- 体調不良を訴えて保健室に行くことが増えた。
- 授業中に寝るなどの集中していないことが増えたり、成績が下がったりした。
- 忘れ物をしたり、物を失くしたりすることが増えた。
- 昼食を食べなかつたり、残したりしている。
- 部活動を休んだり「やめたい」と言ったり、「進路変更したい」と言ったりする。

【特に友人関係で】

- 一緒に過ごす友人が変わった。
- 休み時間に一人で過ごすことが増えた。
- 周囲の人の様子を気にするようになった。

【特徴的な様子として】

- 落ち込んだり、はしゃいだりするなど、感情の起伏が激しくなった。
- 何かと教職員に寄ってくるようになった。
- 持ち物が頻繁に替わるようになった。
- スマートフォンやSNSをひどく気にするようになった。
- 服が汚れていたり、理由のはっきりしないアザや擦り傷があつたりする。

【その他、気になること】

例：「過去に受けた友人からの嫌な言葉や行為を思い出し、心身の不調を訴えるようになった」など。

{ _____ }

生徒の様子が気になったら

- 1 本人の様子を、校内で共有するとともに、様々な立場の教職員が丁寧に（さらに）観察する。
- 2 本人の様子を、保護者に伝えるとともに、家庭でも丁寧に（さらに）観察するよう、見守りを依頼し、状況を共有する。
- 3 本人と面談し、悩みや不安、いじめの有無等について聴き取り、状況を確認する。面談の様子については、本人との信頼関係の保持に配慮しつつ、保護者と共有する。
- 4 面談等でいじめ被害の申告があつたり、いじめの情報を得たりした場合は、その日のうちに校長（または教頭）と関係教職員が情報を共有し、当面の対応を決定するとともに、直ちに対応に取り組む。

※ なお、本リストは、虐待や抑うつ状態の兆候とも重複する可能性がある。